

タブレット使い SDGs の理解深める@東京・都立墨東特別支援学校

東京都立墨東特別支援学校では、中学部に準ずる教育課程の5名（1年4名、2年1名）を対象に2021年11月～12月、SDGsを「自分の生活に結びつけて考える」をテーマとして学習計画（総合的な学習の時間・9時間）を組みました。事前学習、新聞社の出張授業、事後学習の3つを柱に学びを深め、生徒の問題意識や学習意欲を高める授業づくりを目指しました。

（墨東特別支援学校 教諭 佐々木千咲）

■事前学習（各自がタブレット端末を活用して①～③の学習を実施）

- ①SDGs が定めた 17 のゴールを「取り組むべきだ」と思う順番に並べかえ、その理由を発表する
- ②ゴールの中から気になるものを1つ選び、調べてまとめ、発表する
- ③全校生徒に SDGs を呼びかけるためのポスターを作る

【生徒が作成したポスター】



「学校でできる SDGs」



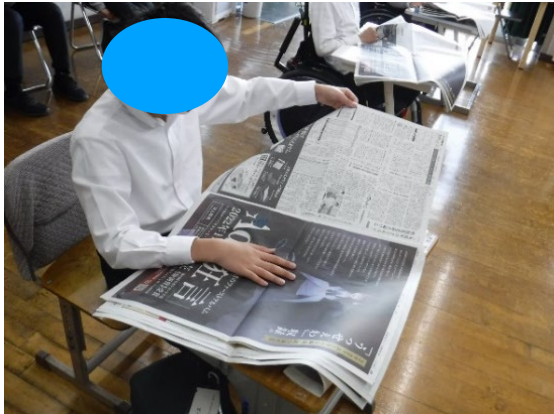
「家でできる SDGs」

■新聞社の出張授業

朝日新聞社に出張授業を依頼し、講師の遊佐氏より「新聞の読み方」のほか、「ペタッと SDGs ふせん」を活用した SDGs ワークショップを行っていただきました。

＜新聞の読み方授業＞

「新聞の読み方」についての授業では、新聞の構成、見出しやリードの役割を含め説明がありました。1ページずつめくりながら、その面の特徴を聞き、ひとつおりの新聞に目を通した後で、「気になった記事とその理由」について発表するワークを行いました。



上野動物園のパンダの成長についての記事、面白そうなテレビ番組についての記事、電車についての記事、ドラえもんの像ができたことについての記事、コロナウイルスについての記事と、自分の好きなことや気になることについての記事を見つけ、思い思いに発表していました。

日ごろから言語活動に力を入れています。が、ふだん関わる家族や教師とは異なる外部講師とのやりとりは、生徒にとって良い経験、成功体験となって自信へとつながりました。

<「ペタッとSDGs 付箋」を使ったワークショップ>



「ペタッとSDGs 新聞学習ふせん」のワークショップでは、食品ロスと地球温暖化についての記事を扱いました。全員で記事を読んだ後、それぞれの意見を付箋に書き込みました。（写真下左）

記事を拡大して掲示し、関連する部分に付箋を張りつけてい

くことで、同じ記事でも、生徒によって注目する点や課題の捉え方が違うということを可視化することができました。（写真下右）

扱った記事は現在も教室に掲示しています。



■事後学習

「SDGs の CM を作ろう！」と題して PR 動画を制作しました。

「SDGs とは？」「自分たちができること、やるべきことは？」という項目を入れて原稿を作りました。

「SDGs とは？」に関しては、自分の言葉で SDGs を表現するよう声をかけました。「地球を明日に残すための目標」「みんながみんなのために頑張ること」「みんなが地球のためにやるべきこと」「地球を守るためにやるべきこと」「地球をみんなできれいにしていくためのルール」と豊かに表現しました。

できた原稿を本人たちが読み上げている姿を撮影しました。動画内で使用する画像も生徒が選んだもので、撮影した動画と画像を教員が編集（iMovie、約 2 時間）し、「PR 動画」（約 5 分）が完成しました。SDGs の本質を生徒一人ひとりが理解し、生徒ならではの言葉で言語化することができました。



動画制作は新たな試みでした。初めは「動画撮影は恥ずかしい」と言っていた生徒も、「PR 動画を見て、みんながもっと環境に目を向けてくれるといいな」「見てくれる人が分かりやすいように、易しい言葉を使おう」などと話しあいながら活動しました。完成した動画を見たときには、全員が誇らしげな表情をしていました。

生徒たちは、「食品ロス」が取り組むべき課題と感じたようで、動画内では、「食べ残しをしないようにしよう」「形がよくない野菜も食べよう」などと呼びかけています。毎日の家庭での食事や給食という身近な事柄とつながり、イメージしやすかったのだと思います。「自分で考えて、自分の言葉で思いを伝える」という体験は、とても貴重で有意義なものでした。

自分の思いを言葉にして伝える力は、社会生活の中で自己表現をしていくために必要不可欠です。新聞記事を通して社会で起きている事象について知ることは生徒の世界観を広げることにつながり、学んだことを自分のフィルターを通してアウトプットすることは学びを深めることになると今回の実践を通して改めて感じました。

今後も言語活動の充実へ向けて、「今」をタイムリーに体験できる NIE を活用しながら本校ならではの SDGs を実践し、生徒の問題意識や学習意欲を高める授業作りを目指します。「できることから始める」を合言葉に、これからも自分から発信していける生徒を育てていきます。

以上